

あ と が き

No.63 の原稿が全て揃い、印刷に回す状態になりました。1966 年に始まった JNDC ニュースの時代から数えると、99 号になりました。33 年間も続いているのですから、すばらしいと思います。執筆を快く引き受けてくれた方々の協力により此処まで来られたものです。編集委員会は、今後も本誌が核データの情報誌としての使命を果たせるよう努力しますので、引き続きご協力をお願いします。

さて、私事ですが、2 年半ほど原子力発電技術機構のヒューマンファクターセンターに出向していました。ご存じの通り、ヒューマンファクターとは、人は間違い（ヒューマンエラー）を犯すものとの認識に立ち、それでも間違いをできるだけ少なくするにはどうしたらよいか、あるいは間違いを起こしてしまってもその影響をできるだけ少なくするにはどうしたらよいか、といったことを研究する分野です。私が出向したところでは、主に原子力発電所の運転員や保守員が対象ですが、考えてみれば核データの評価や編集などといった我々の仕事の分野でも、ヒューマンエラーが起こります。例えば、数値を入力する際のエラーの確率は零ではありません。計算やデータ編集に使うプログラムにもまだ気づいていないバグが決して無いとは言えません。あるいは、データ処理の結果が正しくなかったことをかなり後で気付いて、愕然とすることもあります。思いこみがあると、間違いになかなか気付かないものです。こういうことをできるだけ少なくするにはどうしたらよいか。単に、「細心の注意をして」というのではなく、ヒューマンエラーを少なくするための道具や環境の整備が必要だと思います。

中川 庸雄

nakagawa@ndc.tokai.jaeri.go.jp

核データニュース編集委員会

中川 庸雄（委員長、原研）、井頭 政之（東工大）、岩本 修（原研）、喜多尾憲助（データ工）、高田 弘（原研）、吉田 正（武蔵工大）